



安全第一で安定輸送確保のために 7月11日 尽力する組合員・社員が、安心して働ける 職場環境をつくり出すための申し入れを提出！

7月1日、新たなグループ経営ビジョン「勇翔2034」が発表され、モビリティと生活ソリューションの二軸や、融合と連携によるシナジーでの既存事業の成長等により、2031年度営業収益4兆円超をめざすことなどが示されました。その前提として、各種施策に現場の組合員・社員が向き合い奮闘してきたことにより、会社のめざす構造改革を前進させてきたことは言うまでもありません。

そのような中、鉄道事業部指令・サービス品質改革ユニットで、「融合と連携」の施策により乗務ユニットとの兼務発令がされている組合員が、本人が乗務を希望しているにも関わらず、7月以降は乗務をさせないと通告され、本人に対して貸与品の返却が求められました。その理由として「兼務の指令員が増加し、勤務が逼迫する状況となっしまい、休日勤務が増えている」などとされています。

しかし、安全第一を前提として、乗務業務と指令業務を通じてお互いの業務に活かし、安全レベルの向上に努めることが施策の趣旨であり、組合員は日々の努力のもと、施策を担ってきました。安全レベルの向上に向けた施策ならば要員逼迫を理由に行わないのではなく、そもそもの問題解決に向けて努力をするべきです。職場の組合員・社員からは「指令と乗務ユニットでお互いの視点を共有してきた」「乗務できなくなるのはモチベーション低下」「指令室の希望者は減るのではないか」等、施策の趣旨を踏まえ奮闘してきたことが蔑ろにされ今後の働きがいの低下にも繋がると意見が出されています。

したがって、安全・サービスレベル向上の実現に向けて奮闘する組合員・社員のモチベーションが向上し、安心して働ける環境をめざして、団体交渉を行います！

【申し入れ項目】

1. 鉄道事業部 指令・サービス品質改革ユニットと乗務ユニットの兼務発令を行っている組合員に対して、本人の希望に則り、技量維持確保のため、定期的に乗務の勤務指定を行うこと。
2. 鉄道事業部 指令・サービス品質改革ユニットと乗務ユニットの兼務発令を行っている組合員に対して、乗務可能な条件を確保するため、毎月の定例訓練を行うこと。また、訓練センターにおける乗務員訓練を行うこと。
3. JR東日本の安全・安定輸送確保に尽力する組合員・社員が、安心して働ける環境をつくるために、管理者からの一方的な対応に終始することなく、丁寧なコミュニケーションを図り本人の事情等に配慮すること。

本人希望を蔑ろにする経営姿勢を許さない！本人希望の尊重と、安心して働ける労働環境をつくり出すために団体交渉を行います！